

2025年7月11日

SOMPOシステムズ株式会社

SOMPOチャレンジ株式会社

株式会社ポンデテック

使用済PCの再生事業で連携開始 ～IT分野での障害者雇用創出と電子ゴミ削減に向けた3社協業～

SOMPOグループのSOMPOシステムズ株式会社（本社：東京都立川市、代表取締役社長：内山修一、以下「SOMPOシステムズ」）、SOMPOホールディングスの特例子会社※であるSOMPOチャレンジ株式会社（本社：東京都西東京市、代表取締役社長：榎本恭子、以下「SOMPOチャレンジ」）、関西電力グループの株式会社ポンデテック（本社：大阪府大阪市、代表取締役：財津和也、以下「ポンデテック」）は、3社連携によるリファーマビリティ事業を2025年7月から開始します。

本事業では、SOMPOシステムズにて使用を終えたPCを再生し、再利用可能な再生PCとして流通させます。再生処理にはSOMPOチャレンジの職員が携わり、清掃・部品交換といった業務を行います。ポンデテックは、技術支援と全体統括を行います。

なお、本件は、保険業界における障害者雇用促進の新たな取り組みであり、特例子会社がIT分野での就労機会を拡大することにもつながる試みです。

※特例子会社とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定められた、障害者の雇用に特別な配慮をした会社のことです。

1. 提携の背景

近年、企業に求められる社会的責任は拡大しており、SDGsの視点からも、使用済IT機器の有効活用や障害者雇用の創出といった取り組みが、実効性のある企業活動として位置づけられるようになっていきます。2024年4月に施行された改正障害者差別解消法を受け、SOMPOシステムズは視覚障害者向けの業務端末の開発を行うなど、IT分野での多様な人材活躍の推進に取り組んできました。また、SOMPOチャレンジでは、より多くの障害のある方が個々の強みを生かし、働きがいを持って就業できるよう、新たな業務の創出を進めています。

こうした背景の中で、SOMPOシステムズは障害者活躍の促進と資源再利用という社会的意義に資する業務として、PC再生の工程に着目し、SOMPOチャレンジと事業化の検討を進めてきました。

本連携は、ポンデテックがこれまでに関西電力グループの特例子会社「かんでんエルハート」や、ヤマハ発動機グループの特例子会社「ヤマハモーターMIRAI」と連携して展開してきた、障害者雇用と電子ゴミ削減を両立するリファーマビリティ事業の実績をもとに実現したものです。SOMPOシステムズで使用を終えたPCを、廃棄ではなく再利用可能な資源として活用することで、3社がそれぞれの役割を持ちながら社会課題の解決に取り組んでいきます。

2. 取組みの概要

本取組みでは、SOMPOシステムズにて使用を終え、廃棄予定のPCを対象に、再生処理を施します。再生工程では、SOMPOチャレンジドの職員が端末の清掃や部品交換、ライセンス再登録等を担います。ポンデテックは、業務設計および技術支援を担い、安全かつ安定した運用が可能となるように支援します。

再生されたPCは、ポンデテックが運営するECショップ「PC next」など多様なチャネルを通じて再流通される予定です。このスキームにより、SOMPOグループ内の端末再利用と障害者の安定的な職域創出の両立を目指します。

3. 今後の展望

今後は、PCにとどまらず、スマートフォンの再生や端末キittingなど、IT領域における障害者活躍の幅の拡大を検討していきます。SOMPOグループ内での水平展開を見据え、より持続可能で働きがいのある業務設計を進めます。

ポンデテックは、今回の協業を通じて、首都圏における障害者の新たな働き方の創出と、電子廃棄物削減を目指すリファーマービッシュスキームの全国展開を加速させていきます。

IT分野における障害者雇用の新たな業務創出には多くの可能性があり、3社間にとどまらず、SOMPOグループおよびポンデテックの連携により、さらなる機会創出を目指します。

※「障害の社会モデル」の考えに準拠し、当社グループでは「障害者」と表記しています。

以上